

# 【年度】 平成23年度（2011年） 入域観光客数概況

平成23年度の観光客数は、552万8,000人  
対前年度比 -17万7,300人、-3.1%  
～年度前半に起こった東日本大震災の影響により減少となった～

## 入域状況

平成23年度の入域観光客数は552万8,000人となったことで前年度実績570万5,300人を17万7,300人下回り、-3.1%のマイナスとなった。この内、国内客は前年度実績から19万5,900人(-3.6%)減少の522万6,600人、一方、外国客は1万8,600人(+6.6%)増加の30万1,400人となった。

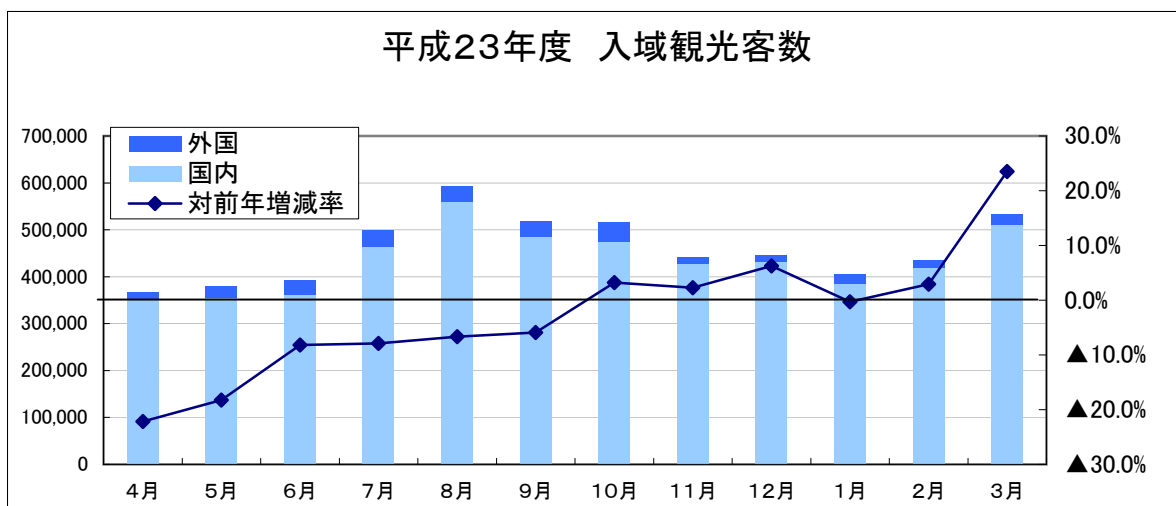
区分	入域観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
国内客	5,226,600 人	5,422,500 人	△ -195,900 人	△ 3.6%	94.5%
外国客	301,400 人	282,800 人	+ 18,600 人	+ 6.6%	5.5%
合計	5,528,000 人	5,705,300 人	△ -177,300 人	△ 3.1%	100%

## 国内客 入域状況

平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、年度前半は旅行自粛の影響を受け、5月まで前年同月実績は二桁台の減少となった。その後は回復基調で推移し始め、一時（8、9月）は台風の影響はあったものの、10月からは対前年同月実績を上回りはじめ、最終的には一桁台（-3.1%）の減少にとどまった。今後しばらくは震災の影響による反動で前年実績を上回る月が続くものと考えられるが、7、8月にはLCCの就航もあり、新規の旅行者増加も予想されるため、堅調な推移が見込まれる。

## 外国客 入域状況

国内同様、東日本大震災の影響により、年度前半（4月～9月）まで前年同月実績を下回り続けた。しかし、7月には数次ビザ発給に伴う中国本土からの観光客増加を始め、海外航空各社の航空機増便、新規路線の就航が相次ぎ、平成24年1月には外国人全体の観光客数累計が平成22年度実績を上回る回復となった。今後は台湾とのオープンスカイ協定による新規就航や増便、韓国国内における沖縄旅行の認知度向上、中国本土、香港の旺盛な旅行需要に支えられ引き続き好調な推移が見込まれる。



地域別入域状況(国内)

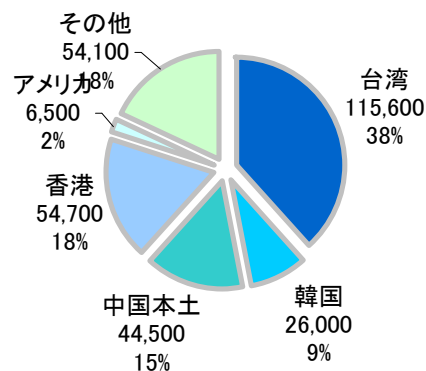
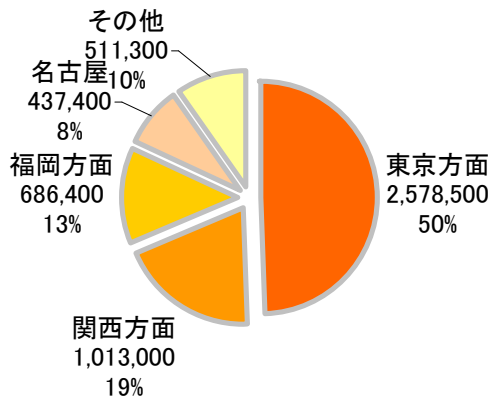
区分	国内観光客数	前年度実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	2,578,500 人	2,686,000 人	△ 107,500 人	△ 4.0%	49.3%
関西方面	1,013,000 人	1,038,600 人	△ 25,600 人	△ 2.5%	19.4%
福岡方面	686,400 人	693,500 人	△ 7,100 人	△ 1.0%	13.1%
名古屋	437,400 人	454,600 人	△ 17,200 人	△ 3.8%	8.4%
その他	511,300 人	549,800 人	△ 38,500 人	△ 7.0%	9.8%
合計	5,226,600 人	5,422,500 人	△ 195,900 人	△ 3.6%	100.0%

※国内海路客:31,600人を含む

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年度実績	増減数	増減率	構成比
台湾	115,600 人	116,900 人	△ 1,300 人	△ 1.1%	38.4%
韓国	26,000 人	18,500 人	+ 7,500 人	+ 40.5%	8.6%
中国本土	44,500 人	23,800 人	+ 20,700 人	+ 87.0%	14.8%
香港	54,700 人	50,900 人	+ 3,800 人	+ 7.5%	18.1%
アメリカ	6,500 人	8,700 人	△ 2,200 人	△ 25.3%	2.2%
その他	54,100 人	64,000 人	△ 9,900 人	△ 15.5%	17.9%
合計	301,400 人	282,800 人	+ 18,600 人	+ 6.6%	100.0%

国内客 構成比 【平成23年度】 外国客 構成比



国籍別 空路・海路 入域状況(海外)

区分	空路 182,500人			海路 118,900人		
	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	56,800 人	+0.7%	31.1%	58,800 人	▲2.8%	49.5%
韓国	25,900 人	+40.0%	14.2%	100 人	皆増	0.1%
中国本土	26,600 人	+202.3%	14.6%	17,900 人	+19.3%	15.1%
香港	53,300 人	+7.2%	29.2%	1,400 人	+16.7%	1.2%
アメリカ	6,000 人	+50.0%	3.3%	500 人	▲89.4%	0.4%
その他	13,900 人	▲2.1%	7.6%	40,200 人	▲19.3%	33.8%
合計	182,500 人	+20.4%	100.0%	118,900 人	▲9.4%	100.0%

※特例上陸者数:51,200人を含む

# 平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 4月

平成23年5月公表資料

4月の観光客数は、37万1,500人。  
対前年同月比 △ 10万400人、△ 21.3%  
～平成22年12月から5ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)
国内客	355,200 人	450,900 人	△ 95,700 人	△ 21.2%
外国客	16,300 人	21,000 人	△ 4,700 人	△ 22.4%
合計	371,500 人	471,900 人	△ 100,400 人	△ 21.3%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	158,300 人	214,300 人	△ 56,000 人	△ 26.1%	44.6%
関西方面	77,800 人	90,700 人	△ 12,900 人	△ 14.2%	21.9%
福岡方面	50,900 人	57,000 人	△ 6,100 人	△ 10.7%	14.3%
名古屋	29,400 人	42,200 人	△ 12,800 人	△ 30.3%	8.3%
その他	38,800 人	46,700 人	△ 7,900 人	△ 16.9%	10.9%
合計	355,200 人	450,900 人	△ 95,700 人	△ 21.2%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	7,500 人	3,500 人	+ 4,000 人	+ 114.3%	46.0%
韓国	900 人	900 人	± 0 人	± 0.0%	5.5%
中国本土	1,700 人	900 人	+ 800 人	+ 88.9%	10.4%
香港	900 人	2,500 人	△ 1,600 人	△ 64.0%	5.5%
アメリカ	500 人	3,200 人	△ 2,700 人	△ 84.4%	3.1%
その他	4,800 人	10,000 人	△ 3,500 人	△ 43.2%	29.4%
合計	16,300 人	21,000 人	△ 4,700 人	△ 22.4%	100.0%

※今月の特例上陸者数は5,700人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 4月は、東日本大震災の影響による新規予約の低迷を受け、前年同月実績を大きく下回った。
- 5月も引き続き厳しい状況が続くものと見られる。ゴールデンウィーク期間は予約状況を上回る送客があったものの、それ以降は引き続き厳しい状況が続くものと見られる。

### 【海外】

- 昨年4月に2回寄港した大型クルーズ船(約4,000人送客)の寄港がなかったこと、震災の影響で旅行が手控えられたことから前年同月実績を下回った。
- 5月、6月は、航空定期便の減便や海路客の減少から厳しい状況が続く。7月以降については、航空定期便の運航再開(香港-那覇)や増便予定(上海-那覇)があることから持ち直しが期待される。

東京

- 震災発生後のキャンセルは落ち着きつつあるものの、新規予約は低迷していることから前年同月実績を下回った。
- GW前から回復基調で推移しているものの、東北地方からの主な経由地となる東京は、今後も厳しい状況が続くものと見られる。

大阪

- 4月は、提供座席数の減少や震災による旅行マインド低下の影響を受け、前年同月実績を下回った。
- 修学旅行を関東方面から沖縄へ振り替える動きもあること、6月以降、神戸路線の廃止から1年が経過することから、対前年比として減少幅は縮小する見通し。

福岡

- 震災発生による団体客を中心とした旅行手控えや提供座席数の減少により、前年同月実績を下回った。
- 昨年運航された福岡－石垣路線の運航が今年はないことから5月は前年同月実績を下回るものとみられる。6月からの増便により持ち直しが期待される。

名古屋

- 前年同月と比較し提供座席数が減少していること、震災に伴う旅行マインドの低下から前年同月実績を下回った。
- ゴールデンウィーク期間から回復のきざしが見えては始めている。6月にはスカイマークによる運航が予定されていることから持ち直しが期待される。

台湾

- 昨年よりも1ヶ月早く台湾からの定期クルーズ船が寄港したことから、前年同月実績を上回った。
- 航空定期便が5月末まで減便されること、震災の影響を受けてクルーズ船の乗船率が昨年に比べ低いことから7月まで前年同月実績を下回るものと見られる。

韓国

- 航空会社の運賃値下げやチャーター便の運航、インセンティブツアーの実施等から前年同月実績並みとなった。
- 5月の連休中にチャーター便が運航されたこと、6月以降クラブメッドチャーター便が再開されることから前年同月実績並みに推移するものと見られる。

中国本土

- 空路客は震災の影響を受け依然として厳しい状況にあるものの、台湾からの定期クルーズ船寄港による海路客(特例上陸者)の増加により、総数としては前年同月実績を上回った。
- 海南航空の北京－那覇線の就航が8月に延期されたこと、中国東方航空の上海－那覇線の増便も8月以降となったことから、7月までは前年並みに推移するものと見られる。

香港

- 4月中旬の沖縄ツアー再開、メディア招聘や広告支援の実施があったものの、震災の影響による旅行手控えは継続しており、前年同月実績を下回った。
- 香港ドラゴン航空は6月末まで運休するため、前年同月実績を下回るものと見られる。

6月のトピックス

月間	下旬
沖縄各地でのハーリー大会 港川、屋慶名、奥武島、嘉手納など	うたの日コンサート Miyako Island Rock Festival 2011 2011年6月25日(土)

# 平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 5月

平成23年6月公表資料

5月の観光客数は、38万4,500人。  
対前年同月比  $\Delta$ 8万500人、 $\Delta$ 17.3%  
～平成22年12月から6ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)
国内客	360,500 人	434,400 人	$\Delta$ 73,900 人	$\Delta$ 17.0%
外国客	24,000 人	30,600 人	$\Delta$ 6,600 人	$\Delta$ 21.6%
合計	384,500 人	465,000 人	$\Delta$ 80,500 人	$\Delta$ 17.3%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	150,000 人	186,700 人	$\Delta$ 36,700 人	$\Delta$ 19.7%	41.6%
関西方面	95,700 人	105,600 人	$\Delta$ 9,900 人	$\Delta$ 9.4%	26.5%
福岡方面	48,000 人	52,900 人	$\Delta$ 4,900 人	$\Delta$ 9.3%	13.3%
名古屋	28,400 人	39,200 人	$\Delta$ 10,800 人	$\Delta$ 27.6%	7.9%
その他	38,400 人	50,000 人	$\Delta$ 11,600 人	$\Delta$ 23.2%	10.7%
合計	360,500 人	434,400 人	$\Delta$ 73,900 人	$\Delta$ 17.0%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	11,600 人	14,000 人	$\Delta$ 2,400 人	$\Delta$ 17.1%	48.3%
韓国	1,100 人	1,400 人	$\Delta$ 300 人	$\Delta$ 21.4%	4.6%
中国本土	2,700 人	1,400 人	+ 1,300 人	+ 92.9%	11.3%
香港	1,700 人	5,500 人	$\Delta$ 3,800 人	$\Delta$ 69.1%	7.1%
アメリカ	400 人	400 人	$\pm$ 0 人	$\pm$ 0.0%	1.7%
その他	6,500 人	7,900 人	$\Delta$ 1,400 人	$\Delta$ 17.7%	27.1%
合計	24,000 人	30,600 人	$\Delta$ 6,600 人	$\Delta$ 21.6%	100.0%

※今月の特例上陸者数は8,600人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 昨年の5月と比較し提供座席数が約11万席減少していること、震災後の消費マインド低下にともなう旅行手控えも継続していることから、前年同月実績を下回った。
- 6月以降、昨年5月から継続していた提供座席数減少が一巡しつつあることから、減少幅は縮小する見通し。東京電力、関西電力による節電要請、企業による夏休み取得の推奨等から沖縄への送客数増加が期待される。

### 【海外】

- 5月は、海路客については昨年実績並みに推移したものの、震災の影響による航空定期便やチャーター便の運休から前年同月実績を下回った。
- 6月は、航空定期便やチャーター便の運休等から厳しい状況が続く見通し。7月以降は、条件付で中国人観光客に対して数次ビザの発給が可能になること、航空定期便の運航再開や北京-那覇便の就航予定(7月末)等から持ち直しが期待される。

東京

- GW期間中はホテルや旅行会社の値下げにより好調に推移したものの、昨年の5月に比べ提供座席数が大幅に少ないことから、前年同月実績を下回った。
- 6月以降は提供座席数の減少が一巡することから減少幅は縮小傾向で推移する見通し。

大阪

- 5月は、提供座席数の減少、震災による旅行手控えから、前年同月実績を下回った。
- 6月は、修学旅行の他方面からの振替から回復傾向で推移するものと見られる。今後は、神戸路線の廃止から1年が経過し、昨年と比較した減少幅は縮小するものと見られる。

福岡

- 団体客を中心とした旅行手控えや提供座席数の減少、さらに、昨年運航された福岡－石垣路線の運航が今年はないことから、前年同月実績を下回った。
- 6月以降は、スカイマークが1日1往復増便することから昨年並みの推移が見込まれる。さらに、高校総体開催により予約が取りづらかったことへの反動増も期待される。

名古屋

- 5月は、提供座席数の減少や震災による旅行手控えの継続から前年同月実績を下回った。
- 6月以降は、スカイマークによる名古屋－那覇線の就航や全日空による機材大型化、消費自粛の反動による需要増加等から回復傾向での推移が見込まれる。

台湾

- 航空定期便の減便、チャーター便運休により空路客が減少したことから、前年同月実績を下回った。
- 航空定期便が6月から前年並みになるものの、チャーター便による送客数の減少から今後も厳しい状況が続くものと見られる。

韓国

- 航空定期便が昨年よりも2便多い運航状況であること、インセンティブツアーの実施等から、震災による旅行手控えはあったものの小幅な減少にとどまった。
- 今後も、航空定期便が昨年よりも多く運航されること、6月からはクラブメッドによるチャーター便が再開されることから堅調に推移するものと見られる。

中国本土

- クルーズ船寄港による海路客(特例上陸者)が増加したことから、前年同月実績を上回った。
- 7月末に北京－那覇線が就航すること、8月以降、中国東方航空の上海－那覇線が増便されることから送客増加が期待される。

香港

- 香港ドラゴン航空の運休、震災の影響による旅行手控えから前年同月実績を下回った。
- 6月は前年割れ、7月以降は、上記定期便の運航が再開されることや緊急対策として実施したメディア招聘等の効果から回復傾向で推移するものと見られる。

7月のトピックス

上旬	中旬
第28回ピースフルラブ・ロックフェスティバル 2010 7月2日(土)、3日(日)	海洋博公園サマーフェスティバル2011 7月16日(土)

# 平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 6月

平成23年7月公表資料

6月の観光客数は、39万7,300人。  
対前年同月比 △3万400人、△7.1%  
～平成22年12月から7ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)
国内客	366,000 人	394,400 人	△ 28,400 人	△ 7.2%
外国客	31,300 人	33,300 人	△ 2,000 人	△ 6.0%
合計	397,300 人	427,700 人	△ 30,400 人	△ 7.1%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	171,800 人	193,000 人	△ 21,200 人	△ 11.0%	46.9%
関西方面	76,600 人	74,500 人	+ 2,100 人	+ 2.8%	20.9%
福岡方面	50,100 人	52,700 人	△ 2,600 人	△ 4.9%	13.7%
名古屋	34,800 人	35,200 人	△ 400 人	△ 1.1%	9.5%
その他	32,700 人	39,000 人	△ 6,300 人	△ 16.2%	8.9%
合計	366,000 人	394,400 人	△ 28,400 人	△ 7.2%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	16,200 人	17,300 人	△ 1,100 人	△ 6.4%	51.8%
韓国	1,500 人	800 人	+ 700 人	+ 87.5%	4.8%
中国本土	2,700 人	3,100 人	△ 400 人	△ 12.9%	8.6%
香港	4,300 人	5,700 人	△ 1,400 人	△ 24.6%	13.7%
アメリカ	300 人	400 人	△ 100 人	△ 25.0%	1.0%
その他	6,300 人	6,000 人	+ 300 人	+ 5.0%	20.1%
合計	31,300 人	33,300 人	△ 2,000 人	△ 6.0%	100.0%

※今月の特例上陸者数は8,200人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 東京方面からの旅行需要が弱く、前年同月実績を下回った。一方で、関西方面については修学旅行を中心に持ち直しの動きが見られるなど、全体的には回復基調にある。
- 7、8月は、各方面の航空定期便の増便が予定されていることなどから、引き続き回復傾向で推移するものと見られる。

### 【海外】

- 6月は、チャーター便の運航が昨年よりも少なかったことや香港－那覇間の定期便運休による送客数の減少等から前年同月実績を下回った。
- 7、8月は、数次ビザの発給開始や、北京－那覇路線の就航、上海－那覇路線の増便、香港－那覇路線の運航再開等から、堅調な推移が見込まれる。

東京

- 低価格の旅行商品や間際予約の増加等で持ち直しつつあるものの、提供座席数の減少や団体旅行の回復の遅れ等から、前年同月実績を下回った。
- 7、8月は、現在の予約状況としては、家族旅行を中心に回復のきざしが見られる。今後の燃油サーチャージの値上げも、沖縄旅行にはプラス要因として作用するものと見られる。

大阪

- 6月は、修学旅行を、東日本大震災の影響により関東以北から沖縄へ振り替えた学校が多数あったため、前年同月実績を上回った。
- 旅行需要は持ち直しつつあり、昨年、高校総体の開催により8月後半から9月にシフトした夏場の家族旅行需要が戻ることも予想され、堅調な推移が見込まれる。

福岡

- 旅行需要は回復傾向にあるものの、旅行手控えの継続が見られることから、前年同月実績を下回った。
- 7月以降は、現在の予約状況としては伸び悩んでいるものの、スカイマークの増便、福岡ー石垣間の運航開始等から今後の集客数増加が期待される。

名古屋

- 6月1日からスカイマークの名古屋ー那覇路線が就航したことから、前年同月実績並みに推移した。
- 7月以降は、スカイマークの名古屋ー那覇路線の増便や全日空の機材大型化、消費自粛の反動による需要増加等から回復傾向での推移が見込まれる。

台湾

- 6月は、復興航空やクラブメッドによるチャーター便の運航が再開されたものの、本格的な回復には至っておらず、前年同月実績を下回った。
- 旅行需要は回復傾向にあり、今後、航空会社や旅行会社とタイアップした広告キャンペーンの効果が期待される。一方、北海道や東京向けの旅行商品が低い価格帯で売り出されており、沖縄の割高感が強調されることも懸念される。

韓国

- インセンティブツアーが数件あり、クラブメッドによるチャーター便の運航も再開したことから、前年同月実績を上回った。
- 今後も、航空定期便が昨年よりも多く運航されること、チャーター便による送客、テレビショッピングによる送客が見込まれることから、堅調に推移するものと見られる。

中国本土

- 昨年運航されたチャーター便が今年はなかったこと、クルーズ船寄港による海路客(特例上陸者)が減少したことから、前年同月実績を下回った。
- 7月末に北京ー那覇路線が就航すること、8月からは上海ー那覇路線が増便されることから、今後は順調に推移するものと見られる。

香港

- 6月は、香港ドラゴン航空の運休から送客数が減少し、前年同月実績を下回った。
- 7月以降は、上記航空定期便の運航が再開されることや緊急対策として実施したメディア招聘等の効果から回復傾向で推移するものと見られる。

8月のトピックス

上旬	中旬
夏祭りin那覇2011 一万人のエイサー踊り隊 8月7日(日)	第56回沖縄全島エイサーまつり 8月19日(金)~21日(日)



# 平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 7月

平成23年8月公表資料

7月の観光客数は、50万6,500人。  
対前年同月比 △3万6,500人、△6.7%  
～平成22年12月から8ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
国内客	470,200 人	502,900 人	△ 32,700 人	△ 6.5%	92.8%
外国客	36,300 人	40,100 人	△ 3,800 人	△ 9.5%	7.2%
合計	506,500 人	543,000 人	△ 36,500 人	△ 6.7%	100%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	246,300 人	256,700 人	△ 10,400 人	△ 4.1%	52.4%
関西方面	89,100 人	95,300 人	△ 6,200 人	△ 6.5%	18.9%
福岡方面	57,600 人	61,600 人	△ 4,000 人	△ 6.5%	12.3%
名古屋	39,300 人	38,900 人	+ 400 人	+ 1.0%	8.4%
その他	37,900 人	50,400 人	△ 12,500 人	△ 24.8%	8.1%
合計	470,200 人	502,900 人	△ 32,700 人	△ 6.5%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	16,700 人	20,000 人	△ 3,300 人	△ 16.5%	46.0%
韓国	2,300 人	1,100 人	+ 1,200 人	+ 109.1%	6.3%
中国本土	2,800 人	4,500 人	△ 1,700 人	△ 37.8%	7.7%
香港	8,500 人	7,400 人	+ 1,100 人	+ 14.9%	23.4%
アメリカ	300 人	500 人	△ 200 人	△ 40.0%	0.8%
その他	5,700 人	6,600 人	△ 900 人	△ 13.6%	15.7%
合計	36,300 人	40,100 人	△ 3,800 人	△ 9.5%	100.0%

※今月の特例上陸者数は6,200人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 東京、名古屋方面からの輸送実績は回復基調にあるものの、九州新幹線開業キャンペーン等により、関西、中国、九州地方では沖縄への旅行需要が減少している。全体としては前年同月実績を下回ったが、ゆるやかな回復基調にある。
- 8月は航空機の増便で前年同月並みの便数となる事や8月中旬の予約状況が好調なことなどから、引き続き回復傾向で推移するものと見られる。

### 【海外】

- 7月は、チャーター便の運航が昨年よりも少なかったことやクルーズ船の寄港が2回少なかったこと等により前年同月実績を下回った。
- 8月は、クルーズ船の増便、北京－那覇路線の就航、上海－那覇路線の増便、香港－那覇路線の運航再開等から、堅調な推移が見込まれる。

東京

- 昨年の高校総体により宿泊予約が取れなかったことの反動や、7月の三連休及び後半の土日に予約が集中し、ほぼ満席便が続いたため堅調な推移となった。
- 8月はお盆時期を中心に予約数が増加しており、震災後キャンセルが相次いでいた団体旅行も秋口以降に増加する見込みであることから引き続き回復傾向で推移するものとみられる。

大阪

- JR、九州各県、旅行会社が協力し、九州新幹線開業によるキャンペーンが実施されており、九州地方への旅行需要が高まっている。その反動により沖縄への旅行は前年実績を下回った。
- 8月には今まで低調であった旅行各社の申込状況に回復基調が見られるが、航空機の提供座席数の減少もあり、ほぼ前年並みで推移するものと思われる。

福岡

- 夏休み前の低価格商品や間際予約が増加したことから、前年実績並みの予約となっているが、高校総体関係の団体需要による反動、九州新幹線開業効果等から、沖縄への旅行は低調な推移となっている。
- 昨年の高校総体により沖縄に行けなかった家族旅行の予約申込の増加、3連休が2回あること、間際申込の傾向が高まっている等で8月、9月は前年実績を上回ると見込まれる。

名古屋

- 7月以降は、スカイマークの名古屋－那覇路線の増便や全日空の機材大型化、消費自粛の反動による需要増加等から旅行客数が回復した。
- 8月の夏休みシーズンを迎え、航空路線予約状況が好調なことから旅行客数が増加傾向にあり、前年実績を上回ると見込まれる。

台湾

- 空路については復興航空のチャーター便や団体旅行数が先月と比べ引き続き回復傾向にあるものの、昨年同月に比べクルーズ船の寄港回数が1回少なかったことから、入域客数は減少した。
- 旅行社等へのヒアリングでは空路・海路ともに8月は堅調に推移している。9月、10月は企業の大規模インセンティブツアーが予定されていることから堅調な推移が見込まれる。

韓国

- 韓国ドラマの沖縄ロケによる認知度の向上や震災による風評被害の緩和、テレビショッピングによる送客数の増加等により堅調に推移した。
- 8、9月は、クルーズ船の入港や旧盆連休、ソウルからのチャーター便(3本)で送客数増加が期待されるが、目的地の多様化などで成長は鈍化される見込み。

中国本土

- 震災の影響が残っているものの、マルチビザが各メディアにも取り上げられ、露出が増えたことから、個人観光ビザだけでなく団体旅行にも好影響を与えてはいると見られる。
- 7月末の北京便就航及び8月からの上海増便から、送客数は伸びる見込み。8月からは上海－那覇路線が増便されることから、今後は順調に推移するものと見られる。

香港

- 7月以降は航空定期便の運航が再開されることや緊急対策として実施したメディア招聘等の効果により前年同月実績を上回った。
- 世界同時株安や円高の影響が長引けば旅行需要低下の恐れはあるが、夏休みによる海外旅行の需要が増すと見込まれる。

8月のトピックス

上旬	中旬
夏祭りin那覇2011 一万人のエイサー踊り隊 8月7日(日)	第56回沖縄全島エイサーまつり 8月19日(金)～21日(日)

# 平成23年（2011年） 入域観光客統計概況 8月

8月の観光客数は、60万500人。  
対前年同月比 △3万5,200人、△5.5%  
～平成22年12月から9ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
国内客	566,900 人	600,800 人	△ 33,900 人	△ 5.6%	94.4%
外国客	33,600 人	34,900 人	△ 1,300 人	△ 3.7%	5.6%
合計	600,500 人	635,700 人	△ 35,200 人	△ 5.5%	100%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	282,500 人	301,700 人	△ 19,200 人	△ 6.4%	49.8%
関西方面	115,600 人	119,400 人	△ 3,800 人	△ 3.2%	20.4%
福岡方面	73,700 人	72,500 人	+ 1,200 人	+ 1.7%	13.0%
名古屋	46,100 人	48,200 人	△ 2,100 人	△ 4.4%	8.1%
その他	49,000 人	59,000 人	△ 10,900 人	△ 18.5%	8.6%
合計	566,900 人	600,800 人	△ 33,900 人	△ 5.6%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	14,300 人	17,100 人	△ 2,800 人	△ 16.4%	42.6%
韓国	2,000 人	1,200 人	+ 800 人	+ 66.7%	6.0%
中国本土	3,800 人	4,100 人	△ 300 人	△ 7.3%	11.3%
香港	8,000 人	6,300 人	+ 1,700 人	+ 27.0%	23.8%
アメリカ	300 人	300 人	0 人	-	0.9%
その他	5,200 人	5,900 人	△ 700 人	△ 11.9%	15.5%
合計	33,600 人	34,900 人	△ 1,300 人	△ 3.7%	100.0%

※今月の特例上陸者数は5,100人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 8月は前年同月を上回る予約状況であったが、初旬の台風9号(8/4～6)が影響し、月全体としては前年同月実績を下回った。しかし、先月に引き続き、観光客数の減少幅は縮まっており、ゆるやかな回復基調にある。
- 9月以降は旅行代金の値下げや節電の影響により個人旅行、団体旅行の増加が見込まれており、前年同月並みの水準が見込まれる。

### 【海外】

- 前年同月と比べてクルーズ船の寄港回数が2回少なかった影響で観光客数が全体としては下回ったが、空路に関しては中国、香港の航空便の増加等により前年同月実績を上回った。(空路:19,700人 / 海路:13,900人)
- 9月28日からの Guam 線開設等の航空路線拡充により、引き続き堅調な推移が見込まれる。

## 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

- 予約ペースで前年を上回る状況であったが、台風9号の影響によりキャンセルが多く発生した。沖縄以外では九州新幹線を利用した九州方面好調で、北海道へも旅行客が流れた。
- 10月以降の燃油サーチャージ値下げ、円高の影響で海外旅行の活性化が予想されるが、9月以降、旅行代金が安くなることから、若年層の予約が好調。ファミリー旅行についても節電の影響から企業の夏休みが取りやすく、例年以上の需要が見込まれる。

### 大阪

- 台風9号の影響による旅行取消と、お盆以降8月後半の航空座席が満席状態だったため、旅行商品も販売出来ず、対前年を下回った。
- 9月後半の2回の三連休は好調に推移している。また、9月8日～26日の直行便によるJTA関西～宮古線が就航することになり、関西圏からの集客が見込まれる。

### 福岡

- 台風9号の影響で取消が多く発生したが、旅行各社の企画商品販売が概ね前年を上回った影響もあり、家族旅行を中心とした個人旅行需要が好調であった。
- 9月以降の減便による影響や、TDR(東京ディズニーランド)商品に復調の兆しもあり、週間当りの予約数の伸びの鈍化が心配されるが、9月、10月の旅行各社の企画商品予約状況が好調であり、前年と同程度かそれを上回る推移が見込まれる。

### 名古屋

- 台風の影響が懸念されたが大きな落ち込みはなく、8月後半から個人客を中心に旅行需要が伸びてきている。
- 秋以降、団体旅行向けのバスが不足するというマイナス要因があるが、9月も8月同様に旅行予約が伸びており、10月以降、修学旅行・個人旅行が増える見込みがある。

### 台湾

- 海路に関しては昨年よりもクルーズ船の寄港回数が2回少なかった(今月は4回)ことから前年同月を下回ったが、空路については団体旅行の回復傾向や、個人旅行の成長傾向により、昨年並みの水準で推移した。
- 9月については大型のインセンティブツアーがあること、台中チャーター、クラブメッドチャーター、復興航空石垣チャーターが企画されていることから堅調な推移を見せると予想される。

### 韓国

- 夏休みと独立記念日の連休があって、家族連れなどの個人客をはじめ韓国ドラマの沖縄ロケによる認知度の向上や震災による風評被害の緩和、テレビショッピングによる送客数の増加等により堅調に推移した。
- 目的地の多様化などで成長は鈍化される懸念はあるが、9月の旧盆連休、ソウルからのチャーター便(4本)、秋頃のゴルフ目的の旅行等で送客数増加が期待される。

### 中国本土

- 海路に関し、クルーズ船の寄港回数が少なかったことから前年同月を下回ったが、空路に関しては北京直行便、上海便増便にて、月単位では過去最高の客数(2,200人)となった。
- 10/12～17の日程で上海～石垣～那覇のクルーズ(SIPG主催)が予定されており(1300名定員)、空路に関しても引き続き増加傾向が見込まれる。

### 香港

- 円高の影響による訪日旅行マインド低下の懸念はあったものの、香港ドラゴン航空の増便(7/16～8/27週2→4便)、メディア招聘等の効果により、前年同月実績を上回った。
- 学校が再開し、旅行市場全体の需要が低下する時期ではあるが、前年同月並みの水準が見込まれる。

## 9月のトピックス

上旬	中旬
<ul style="list-style-type: none"> <li>・首里城公園 中秋の宴 9/10(土)～9/11(日)</li> <li>・各地綱挽大会、豊年祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第26回全島獅子舞フェスティバル 9/25(日)</li> <li>・各地綱挽大会、豊年祭</li> </ul>

# 平成23年（2011年） 入域観光客統計概況 9月

9月の観光客数は、52万4,800人。  
対前年同月比 △2万6,000人、△4.7%  
～平成22年12月から10ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
国内客	492,700 人	513,000 人	△ 20,300 人	△ 4.0%	93.9%
外国客	32,100 人	37,800 人	△ 5,700 人	△ 15.1%	6.1%
合計	524,800 人	550,800 人	△ 26,000 人	△ 4.7%	100%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	253,600 人	262,300 人	△ 8,700 人	△ 3.3%	51.5%
関西方面	100,900 人	104,100 人	△ 3,200 人	△ 3.1%	20.5%
福岡方面	60,000 人	62,000 人	△ 2,000 人	△ 3.2%	12.2%
名古屋	38,500 人	35,500 人	+ 3,000 人	+ 8.5%	7.8%
その他	39,700 人	49,100 人	△ 9,400 人	△ 19.1%	8.1%
合計	492,700 人	513,000 人	△ 20,300 人	△ 4.0%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	15,300 人	17,600 人	△ 2,300 人	△ 13.1%	47.7%
韓国	1,900 人	800 人	+ 1,100 人	+ 137.5%	5.9%
中国本土	4,400 人	4,600 人	△ 200 人	△ 4.3%	13.7%
香港	5,600 人	5,200 人	+ 400 人	+ 7.7%	17.4%
アメリカ	400 人	600 人	△ 200 人	△ 33.3%	1.2%
その他	4,500 人	9,000 人	△ 4,500 人	△ 50.0%	14.0%
合計	32,100 人	37,800 人	△ 5,700 人	△ 15.1%	100.0%

※今月の特例上陸者数は5,100人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 9月上旬の週末や中旬の3連休に台風の影響があったものの、下旬以降は順調に推移した結果、観光客数の減少幅は前月に続き縮小し、ゆるやかな回復基調が続いている。
- 10月は修学旅行の振替需要やウチナーンチュ大会等のイベント効果が期待できることから、引き続き回復基調で推移するものと見込まれる。

### 【海外】

- 空路については中国、韓国、台湾からの観光客が増加しており、9月としては過去最高（約19,000人）を記録した。海路については前年同月と比べてクルーズ船の寄港回数が10回から5回に減少した影響により、全体としては対前年同月比を下回る結果となった（外国人観光客の状況：空路：21%増 / 海路：40.7%減）
- 空路に関しては引き続き好調な推移が見込まれており、10月の海路についても前年同月と同様に推移するものと見込まれる。

## ■ 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

- 予約ベースで前年を上回る状況であったが、台風の影響によりキャンセルが多く発生した。月の後半には個人型旅行商品の他、夏休みの長期化の影響もありファミリー層の利用も多かったことから小幅な縮小となった。
- 旅行各社ともに団体旅行誘致への取り組みが活発ではあるが、飛行機の座席やホテルが手配できない状況があり、11月以降は個人、団体とも伸び悩む傾向にある。

### 大阪

- 連休利用による旅行需要に観光客数の増加が期待されていたが、台風15号の影響を受け、旅行各社にあっても大幅な旅行取消による結果、観光客数は対前年を下回った。
- 旅行各社による価格訴求商品の投入により、好調に推移しているが、メディアを利用した広告効果で、九州新幹線利用の九州方面への旅行商品の売れ行きが依然として好調のため、沖縄観光は苦戦を強いられると思われる。

### 福岡

- 台風15号の影響により、個人、団体共に旅行取消が多く発生したが、旅行各社の個人旅行を中心とした企画商品販売が好調で、月全体では前年同月実績よりも下回った。
- 10月の旅行各社の企画商品予約状況が好調で前年並みに推移すると見込まれるが、11月は前年同時期比で70%台～100%となっており、また航空機の提供座席数の減少もあり、団体関係の座席確保が厳しい状況となっている。

### 名古屋

- 台風の影響による落ち込みはあったが、例年並に旅行需要が戻りつつある。
- 10月以降、一般団体、修学旅行とも好調に推移する見込みである。特に11、12月の予約が非常に好調な状況にあり、引き続き好調が予想される。

### 台湾

- 個人旅行を中心とした旅行需要が好調で沖縄遊び(紅型作り、ダイビング等)の需要が上昇傾向にあるが、クルーズ船の寄港が少なかったことから前年同月よりも減少した。
- OPEN SKYの延期により、各航空会社の沖縄路線へのモチベーションを下げているが、10月以降はインセンティブツアーの申し込みやスポーツイベントによる旅行需要も見込まれる。

### 韓国

- ロケ地めぐりツアーのテレビショッピング販売による効果に加え、チャーター便(4本/最終便はリターンのみ)や連休が少なかったことから近距離地域が注目され、前年実績を上回った。
- 目的地の多様化などで成長は鈍化する懸念はあるが、秋や冬場のゴルフ目的の旅行等で送客数増加が期待される。

### 中国本土

- 航空便について、7月、8月が好調であったことから、上海便の増便(週4便→週6便)となり、10月末日までの運行を予定している。
- 10/12～の上海発クルーズ、中国各地からのチャーター便の予定など、増加する見込み。特に2011/11、12月は尖閣諸島問題で減少したこともあり、200%以上の増加が見込まれる。

### 香港

- 香港ドラゴン航空が夏休み期間の週4便の通常運航から週2便に減便し、旅行市場全体の需要が低下する時期(季節変動)にはあるが前年並みの推移となった。
- 10月以降は、国慶節の連休が少ないことや、航空機の機材縮小の影響で前年同月並みかそれよりも若干下回る可能性がある。

## ■ 10月のトピックス

上旬	中旬
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第41回那覇大綱挽</li> <li>・第5回世界ウチナンチュ大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界エイサー大会2011</li> <li>・平成23年度首里城際</li> </ul>

# 平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 10月

10月の観光客数は、52万2,200人。  
対前年同月比 +2万2,700人、+4.5%  
～平成22年11月以来、11ヶ月ぶりに前年同月実績を上回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
国内客	481,400 人	470,900 人	+ 10,500 人	+ 2.2%	92.2%
外国客	40,800 人	28,600 人	+ 12,200 人	+ 42.7%	7.8%
合計	522,200 人	499,500 人	+ 22,700 人	+ 4.5%	100%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	247,700 人	249,300 人	△ 1,600 人	△ 0.6%	51.5%
関西方面	85,400 人	81,100 人	+ 4,300 人	+ 5.3%	17.7%
福岡方面	62,800 人	56,600 人	+ 6,200 人	+ 11.0%	13.0%
名古屋	38,300 人	35,700 人	+ 2,600 人	+ 7.3%	8.0%
その他	47,200 人	48,200 人	△ 1,000 人	△ 2.1%	9.8%
合計	481,400 人	470,900 人	+ 10,500 人	+ 2.2%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	15,300 人	11,500 人	+ 3,800 人	+ 33.0%	37.5%
韓国	1,700 人	1,200 人	+ 500 人	+ 41.7%	4.2%
中国本土	7,100 人	3,100 人	+ 4,000 人	+ 129.0%	17.4%
香港	5,500 人	3,300 人	+ 2,200 人	+ 66.7%	13.5%
アメリカ	1,700 人	700 人	+ 1,000 人	+ 142.9%	4.2%
その他	9,500 人	8,800 人	+ 700 人	+ 8.0%	23.3%
合計	40,800 人	28,600 人	+ 12,200 人	+ 42.7%	100.0%

※今月の特例上陸者数は8,200人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 10月の観光客数は、東京方面からの観光客数も回復傾向が顕著になり、振替による沖縄への修学旅行等の団体旅行、個人旅行も好調に推移し、関西、福岡、名古屋方面は前年同月実績を上回った。
- 11月について、修学旅行の振替や各種スポーツイベント、松山、広島路線の増便、開設など、観光客数については堅調な推移が見込まれる。

### 【海外】

- 世界ウチナーンチュ大会の効果や上海-那覇路線の増便、グアム線の開設、大型クルーズ船の寄港などにより輸送実績が好調に推移し、外国人客が各方面で増加した(外国人観光客の状況: 空路:67%増 / 海路:25%増)。
- 今後はアジアナ航空のデイリー化や中国本土からの好調な旅行需要が期待できるなど、引き続き堅調な推移が見込まれる。

## 各方面ごとの概況と見通し

## 東京

- 10月初旬の三連休を中心に、個人型企画商品の売れ行きが好調であった。航空機の提供座席数についても修学旅行や団体等への対応のため大型機材を投入するなど、座席縮小を最小限の抑えるなどして、前年同月実績も微減にとどまった。
- 11月以降も修学旅行による受入が比較的、好調に推移しているが、個人による独自予約や間際予約が顕著になっており、今後の動向が読みにくい状況となっている。

## 大阪

- 連休利用の旅行者により旅行者数も好調であり、修学旅行においても東日本からの振替需要により好調であった。九州新幹線一色の関西地区にあっては善戦し、対前年並実績を上回った。
- 3月までの季節運航ではあるが、10/30にANA松山沖縄線の就航や、ANA広島沖縄線が10/30から増便し1日2便運航となり、来沖者の増加に期待が持たれる。

## 福岡

- 旅行各社の企画商品予約数がほぼ前年同時期を上回っており、個人旅行、団体旅行共に順調に推移していることから、月全体でも前年同月実績を上回った。
- 出発間際予約が増えているが、11月以降はTDR商品、関西、九州南部等の商品予約、円高による海外旅行の増加により、沖縄商品の予約の伸びが鈍化している。ANA福岡-沖縄線は11月から機材の小型化により、団体、個人共に座席確保が厳しい状況となる。

## 名古屋

- 前年を大きく上回る状況で、一般団体、修学旅行とも好調に推移し、非常に好調である。
- 11月～12月は前年を上回る見込みである。特に11月は予約が非常によい状況にあり、12月も堅調に推移する見込みである。1月はこれから動きが出てくる見込み。

## 台湾

- 10月は、国際チャーター支援や団体旅行支援等、直接的にお客様や旅行社・航空会社の旅行費用に影響するため、台湾から沖縄観光への大きな支援になっている。
- 12月末と、旧正月(1/23)連休は、旅行代理店、航空会社によるチャーター便もあり、旅行者の増加が期待される。沖縄でのスポーツイベントの認知度は高く、今後沖縄のスポーツイベントに台湾からの参加の増加に期待。

## 韓国

- テレビショッピング販売による効果に加え、連休(10/1-3)中のチャーター便運行により好調に推移した。クルーズ船の寄港やインセンティブツアーも増加要因となった。
- アシアナ航空のデイリー運航やゴルフツアーの定着、野球キャンプによる認知度の向上など、沖縄への旅行需要の増加要因はあるが、バスの不足等、円高による影響も少なからず影響すると見込まれる。

## 中国本土

- 空路に関して、上海直行便が週6便になったことを受け、月単位で過去最高(3,600人)を記録。10/12～17の上海出発のクルーズ(1400名乗り)でも約1000名程度の増客となった。
- 各旅行社とも春節(2012/1/23)時期の沖縄ツアー造成を計画しており、昨年を大幅に上回る見通し。併せて、チャーター便の計画もあり、増客が見込める。

## 香港

- 国慶節の連休が少ないため、旅行需要の伸びが鈍化や、長く続く円高の不安材料はあるものの、沖縄旅行人気は市場で安定しており、堅調に推移した。
- 10月以降は、国慶節の連休が少ないことや、航空機の機材縮小の影響などのマイナス要因はあるが、クリスマスシーズンや春節等の年末年始の旅行需要増加に期待。

## 11月のトピックス

中旬	下旬
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第14回 たらま島一周マラソン大会(11/12)</li> <li>・第19回 日本最西端与那国島一周マラソン大会(11/12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第19回 日本最西端与那国島一周マラソン大会(11/12)</li> <li>・離島フェア2011(11/25-27)</li> </ul>



# 平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 11月

11月の観光客数は、44万6,300人。  
対前年同月比 +1万5,400人、+3.6%  
～2ヶ月連続で前年同月実績を上回った～

## 国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
国内客	432,400 人	422,500 人	+ 9,900 人	+ 2.3%	96.9%
外国客	13,900 人	8,400 人	+ 5,500 人	+ 65.5%	3.1%
合計	446,300 人	430,900 人	+ 15,400 人	+ 3.6%	100%

## 地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京方面	212,900 人	212,000 人	+ 900 人	+ 0.4%	49.2%
関西方面	74,200 人	73,000 人	+ 1,200 人	+ 1.6%	17.2%
福岡方面	60,600 人	57,800 人	+ 2,800 人	+ 4.8%	14.0%
名古屋	35,700 人	34,100 人	+ 1,600 人	+ 4.7%	8.3%
その他	49,000 人	45,600 人	+ 3,400 人	+ 7.5%	11.3%
合計	432,400 人	422,500 人	+ 9,900 人	+ 2.3%	100.0%

## 国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	3,400 人	3,200 人	+ 200 人	+ 6.3%	24.5%
韓国	1,600 人	1,400 人	+ 200 人	+ 14.3%	11.5%
中国本土	2,900 人	100 人	+ 2,800 人	+ 2800.0%	20.9%
香港	3,600 人	2,100 人	+ 1,500 人	+ 71.4%	25.9%
アメリカ	600 人	300 人	+ 300 人	+ 100.0%	4.3%
その他	1,800 人	1,300 人	+ 500 人	+ 38.5%	12.9%
合計	13,900 人	8,400 人	+ 5,500 人	+ 65.5%	100.0%

※今月の特例上陸者数は700人。

## 概況と見通し

### 【国内】

- 11月の観光客数は、引き続き回復傾向にあり、松山、広島路線の増便、開設、更に東京方面からの観光客数が昨年11月以来1年ぶりに対前年同月実績を上回った。
- 12月以降、年末年始における旅行会社の予約状況は西高東低の傾向にあり、クリスマス  
の3連休、年末年始の休日等により沖縄方面への旅行も引き続き堅調な推移が見込まれる。

### 【海外】

- 11月については、観光客数が引き続き増加傾向にあり、沖縄の冬場の温暖なイメージと、中華圏を中心とした沖縄への高い旅行需要などもあり好調に推移した。
- 12月以降、アジア航空のデイリー化(12/1)、中国国際航空の就航(1/11)等、空路による観光客数の増加や年末年始の連休もあり、引き続き好調な推移が見込まれる。

## ■ 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

- 11月については、航空会社の提供座席数が前年とほぼ同数で変わらないが、修学旅行やWEB系の旅行会社を通じた旅行予約が伸び、対前年比を上回った。
- 12月以降、年末年始の予約状況は、3人以上の家族旅行等が好調であり、修学旅行による客数が比較的に好調に推移しているが、個人、団体旅行による独自予約や間際予約が顕著になっており、今後の動向が読みにくい状況となっている。

### 大阪

- 11月の旅行動向としては、関西地区から九州方面への旅行需要が特に好調ではあるものの、沖縄方面は前年同月と比べて微増し、堅調に推移した。
- 12月以降、関西地区は九州新幹線による九州への旅行客が集中しているが、沖縄においては対前年並みから対前年を上回ると見込まれ、回復傾向にある。

### 福岡

- 11月は出発間際予約が増加し、旅行各社の予約状況はほぼ前年同時期実績並みとなった。団体旅行も小口の職場旅行を中心に堅調な推移となっており、前年同月実績を上回った。
- 12月の旅行各社の予約状況は、前年同時期より新規予約が伸び悩んでいる。団体旅行は動きがあるものの、週末出発に集中し、航空座席の確保が厳しい状況となっている。

### 名古屋

- 11月は修学旅行の取扱いが増加した旅行社が数社あるなど、秋口より旅行需要の回復傾向が続いている。とりわけ西日本、九州、沖縄にシフトしているため前年同月実績を上回った。
- 12月当初の沖縄への旅行需要は低かったが、旅行会社の沖縄キャンペーンと名古屋の気候が冷え込んだ時期と重なり、旅行客の増加が見込まれる。

### 台湾

- 11月については、クルーズ船の入港はないものの、台湾で開催された国際旅行博にも多くの人が訪れ(1日に約4千人程の来客)、沖縄への高い関心があることから観光客数も好調に推移した。
- 年末年始や旧正月のチャーター便、旧正月の連休(9日間)があるため、沖縄への観光客数は堅調に推移するものと見込まれる。しかし1月初め～1月20日は総統選挙があるため伸び悩みが予想される。

### 韓国

- 11月は、円高や日本旅行の目的地の多様化など、沖縄への送客低迷が見込まれていたが、冬場のゴルフを目的とした旅行やテレビショッピング販売による認知度向上、インセンティブツアーの増加等で前年同月実績を上回った。
- 12月については、冬場の温暖な天候やゴルフイメージの定着とアジアナ航空デイリー運航による安定的な航空座席供給により、観光客数の増加が見込まれる。

### 中国本土

- 昨年は尖閣諸島問題があったが、東方航空及び各旅行社とも、今年は沖縄ブームといえる状況で、沖縄への旅行需要が高まっており、11月としては過去最高を記録した。
- 12月以降、春節期(1/23以降1週間)を含めて東方航空の就航やチャーター便の計画等により増客が見込まれるため、引き続き好調な推移が見込まれる。

### 香港

- 11月は、オフシーズンによる旅行需要の低迷や長引く円高の不安材料はあるものの、沖縄への旅行は人気もあり、市場では安定していることから堅調に推移した。
- 12月はクリスマスシーズンや春節等の年末年始の旅行需要増加が見込まれ、1月の旧正月にも観光客数の増加が期待できる。

## ■ 12月のトピックス

初旬	下旬
・第27回 NAHAマラソン(12/4)	・第13回 いとまんピースフルイルミネーション(12/16～1/3) ・第34回 摩文仁・火と鐘のまつり(12/31-1/1)

# 平成23年（2011年） 12月 入域観光客数概況

平成24年1月公表資料

12月の観光客数は、45万2,500人。  
対前年同月比 +3万2,100人、+7.6%  
～3ヶ月連続で前年同月実績を上回った～

## 入域状況

12月の入域観光客数は45万2,500人となったことで前年同月実績42万400人を3万2,100人上回り、**7.6%**のプラスとなった。この内、国内客は対前年同月実績から2万8,500人(7%)増加し、43万8,300人、外国客は3,600人(34%)増加の1万4,200人となった。対前年増減率が5%を超えた平成22年9月(6.9%増)以来の高い値となった。

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比	増減率	構成比
国内客	438,300 人	409,800 人	+ 28,500 人	+ 7.0%	96.9%
外国客	14,200 人	10,600 人	+ 3,600 人	+ 34.0%	3.1%
合計	452,500 人	420,400 人	+ 32,100 人	+ 7.6%	100%

## 国内客 入域状況

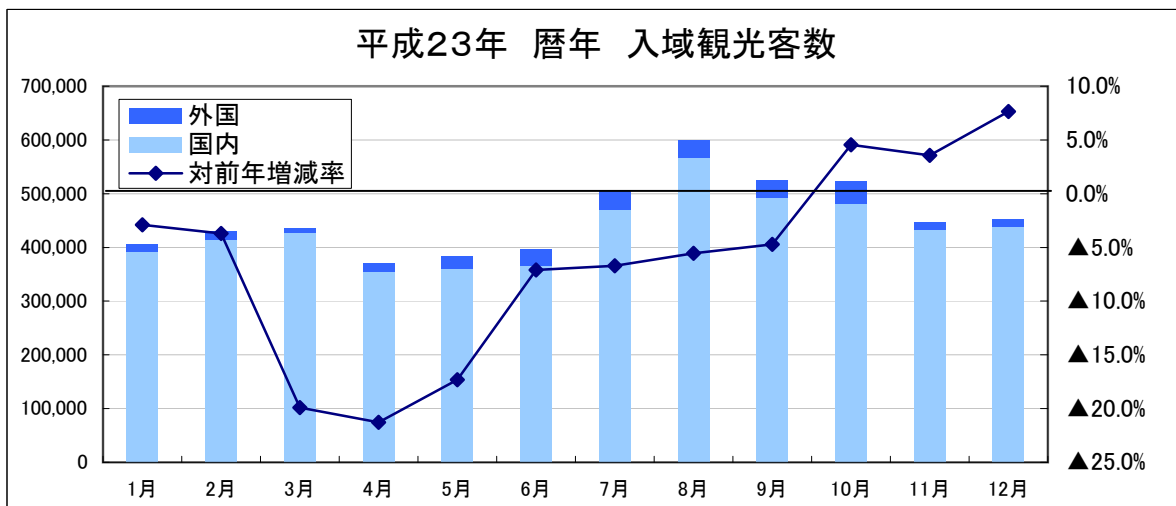
12月はスカイマークの成田-那覇間の新規就航等により提供座席数が8.8%増加したことや、クリスマスの3連休等により、東京、関西方面等が好調に推移したことから、前年同月実績を上回った。

1月は年始の予約状況が好調であったことや、提供座席数が前年同月比で増加していることなどから引き続き堅調な推移が見込まれる。

## 外国客 入域状況

12月について、アジアナ航空のデイリー化（12/1）等、週あたりの定期便が同時期より9便増えたことなどにより好調に推移した。

1月は中国国際航空が就航（1/11）したことや、台湾、香港、中国本土の旧正月（春節）の連休効果により、引き続き好調な推移が見込まれる。



地域別入域状況(国内)

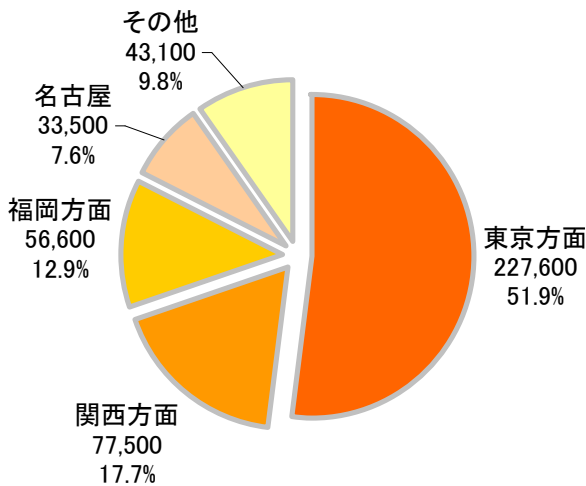
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	227,600 人	211,100 人	+ 16,500 人	+ 7.8%	51.9%
関西方面	77,500 人	71,200 人	+ 6,300 人	+ 8.8%	17.7%
福岡方面	56,600 人	54,500 人	+ 2,100 人	+ 3.9%	12.9%
名古屋	33,500 人	34,000 人	△ 500 人	△ 1.5%	7.6%
その他	43,100 人	39,000 人	+ 4,100 人	+ 10.5%	9.8%
合計	438,300 人	409,800 人	+ 28,500 人	+ 7.0%	100.0%

※国内海路客:2,600人 を含む (東京:100人、関西:100人、福岡:800人、鹿児島:2,400人)

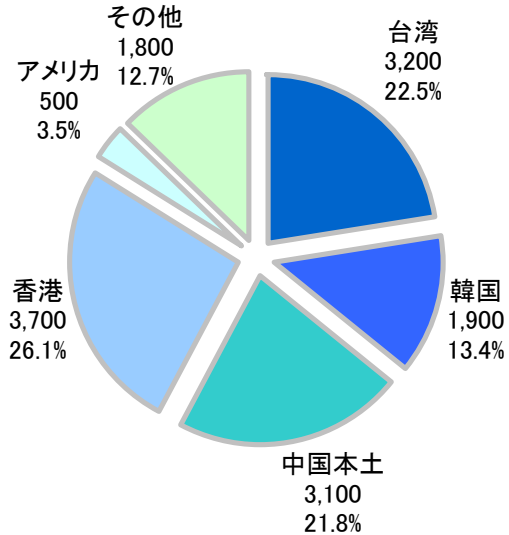
国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	3,200 人	3,200 人	0 人	-	22.5%
韓国	1,900 人	1,900 人	0 人	-	13.4%
中国本土	3,100 人	200 人	+ 2,900 人	+ 1450.0%	21.8%
香港	3,700 人	3,500 人	+ 200 人	+ 5.7%	26.1%
アメリカ	500 人	300 人	+ 200 人	+ 66.7%	3.5%
その他	1,800 人	1,500 人	+ 300 人	+ 20.0%	12.7%
合計	14,200 人	10,600 人	+ 3,600 人	+ 34.0%	100.0%

国内客 構成比



外国客 構成比



国籍別 空路・海路 入域状況(海外)

区分	空路 14,000人			海路 200人		
	空路客数	増減率	構成比	海路客数	増減率	構成比
台湾	3,200 人	+0.0%	22.9%	0 人	-	-
韓国	1,900 人	+0.0%	13.6%	0 人	-	-
中国本土	3,100 人	+1450.0%	22.1%	0 人	-	-
香港	3,700 人	+5.7%	26.4%	0 人	-	-
アメリカ	500 人	+66.7%	3.6%	0 人	-	-
その他	1,600 人	+14.3%	11.4%	200 人	+100.0%	100.0%
合計	14,000 人	+33.3%	100.0%	200 人	+100.0%	100.0%

※特例上陸者数:300人を含む

## 東京

12月について、月初め頃の年末年始の予約状況は前年並みであったが、SKYの成田線就航、クリスマス連休中の個人旅行、修学旅行による団体旅行が好調に推移し、対前年実績を上回った。  
1月以降、予約状況はこれからはっきりすると思われるが、年始明けの1/7あたりからは旅行代金も下がることから、予約が入りはじめており、底堅く推移する見込み。

## 大阪

12月の旅行動向としては、旅行各社によるクリスマス連休及び年末年始休暇の予約状況が好調に推移したため、対前年実績を上回った。  
1月以降、九州新幹線による九州への旅行客の集中、長引く景気低迷の影響等により、旅行各社の旅行予約状況はスローペースであるが、対前年並みから微増で推移するものと思われる。

## 福岡

12月は3連休や週末を中心に出発間際の予約が増加し、前年同時期比で90%~100%となっていたが、SKYの直接予約等により当初の予想を上回ったことで好調に推移した。  
1月以降、旅行各社の予約状況は動きが鈍い状況が続いている。円高を背景にアジアを中心とした海外旅行、関西、南九州商品が好調であることから伸び悩む可能性がある。

## 名古屋

12月は旅行会社の新聞広告等により、冷え込んだ名古屋から温暖な沖縄への旅行需要が高まることも予想されたが、入域観光客数自体は微減となった。  
1月も12月と同様の推移が見込まれるが、2月、3月は航空便の予約状況が非常に好調に推移しており、複数の旅行社が行った沖縄キャンペーン(離島対象の商品等)も非常に好評だったため、引き続き入域客数の増加につながる事が期待される。

## 台湾

12月はクルーズ船の入港はないものの、NAHAマラソンへの参加(家族等を含め200人以上)等、冬場の沖縄旅行は比較的安定しており、前年並みとなった。  
1月以降、1/14の総統選挙前後は旅行需要が大きく落ち込むと見込まれるが、台湾では旧正月の連休が9日間(1/21~1/29)あり、多くの観光客の来沖が期待できる。

## 韓国

12月は冬場の温暖なイメージとアジアナ航空のデイリー化により、旅行客の増大が見込まれていたが、12/19の金正日総書記の死亡ニュース以降、旅行需要が萎縮、株安、円高が進行し、キャンセルが相次いだため増加とはならず前年並みとなった。  
1月以降、冬休みのオンシーズン、旧正月の連休、連休期間中のチャーター便(1本)運航等により旅行客の増加が見込まれる。また、野球キャンプ取材による知名度向上も期待できる。

## 中国本土

12月は冬期であるため例年の入域観光客数は大幅に落ち込むが、数社の大手旅行社が沖縄ツアーを販売しており、今年については対前年実績を大きく上回った。  
1月の春節時期(1/22~1/28)は北京便、上海便とも満席につき、予約できない状況にあるとの報告があり、好調に推移すると見込まれる。

## 香港

12月はクリスマス、年末の予約が好調に推移し、前年実績を上回った。今年は震災の影響が大きかったにもかかわらず、各種リカバリーキャンペーンが奏功し、11月で前年度累計を同程度までに回復した。  
長引く円高の不安材料はあるものの、沖縄旅行は市場で安定しており、1月は旧正月が1/23のため、旅行需要増加が見込まれる。

# 平成24年（2012年） 1月 入域観光客数概況

平成24年2月公表資料

1月の観光客数は、40万9,700人。  
対前年同月比 +3,500人、+0.9%  
～4ヶ月連続で前年同月実績を上回った～

## 入域状況

1月の入域観光客数は40万9,700人となったことで前年同月実績40万6,200人を3,500人上回り、0.9%のプラスとなった。この内、国内客は対前年同月実績から2,200人(0.6%)減少し、38万9,800人、外国客は5,700人(40.1%)増加の1万9,900人となった。

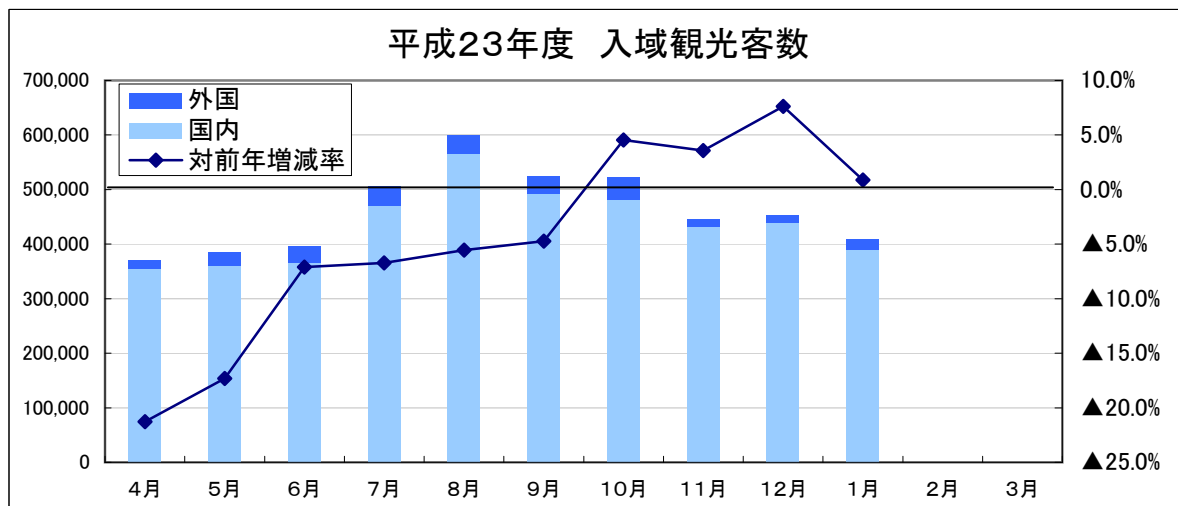
区分	入域観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
国内客	389,800 人	392,000 人	△ 2,200 人	△ 0.6%	95.1%
外国客	19,900 人	14,200 人	+ 5,700 人	+ 40.1%	4.9%
合計	409,700 人	406,200 人	+ 3,500 人	+ 0.9%	100%

## 国内客 入域状況

1月に関しては、円高による海外旅行の動きや九州新幹線などが目立ってきたため、東京方面や関西方面からの観光客数が伸び悩み、観光客数は小幅ながら減少した。2月についても海外旅行や九州など国内観光地との競合が予想されるが、プロ野球キャンプによる誘客効果や、温暖な沖縄への旅行需要が期待できる状況となっており、ゆるやかな回復基調で推移するものと見込まれる。

## 外国客 入域状況

1月は中国国際航空の北京-那覇路線就航（1/11）や、台湾、香港、中国本土の旧正月（春節）の連休効果により前年同月実績を大きく上回った。2月は対前年同月に比べて航空機の提供座席数も増加しており、中華圏の引き続き高い旅行需要に支えられ、堅調に推移するものと見込まれる。



地域別入域状況(国内)

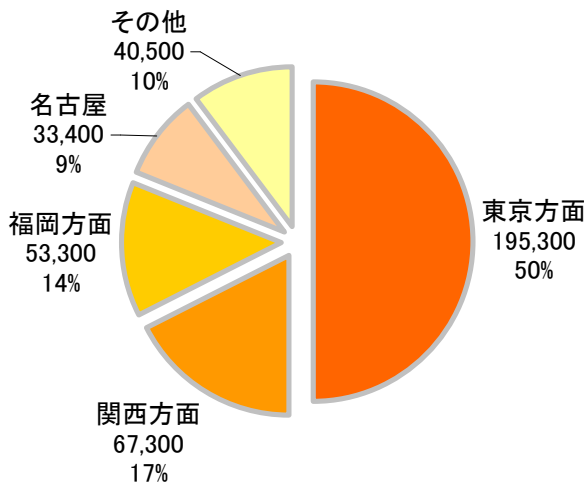
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	195,300 人	200,100 人	△ 4,800 人	△ 2.4%	50.1%
関西方面	67,300 人	67,900 人	△ 600 人	△ 0.9%	17.3%
福岡方面	53,300 人	52,300 人	+ 1,000 人	+ 1.9%	13.7%
名古屋	33,400 人	34,100 人	△ 700 人	△ 2.1%	8.6%
その他	40,500 人	37,600 人	+ 2,900 人	+ 7.7%	10.4%
合計	389,800 人	392,000 人	△ 2,200 人	△ 0.6%	100.0%

※国内海路客:2,900人 を含む(関西:200人、鹿児島:2,500人、その他:200人)

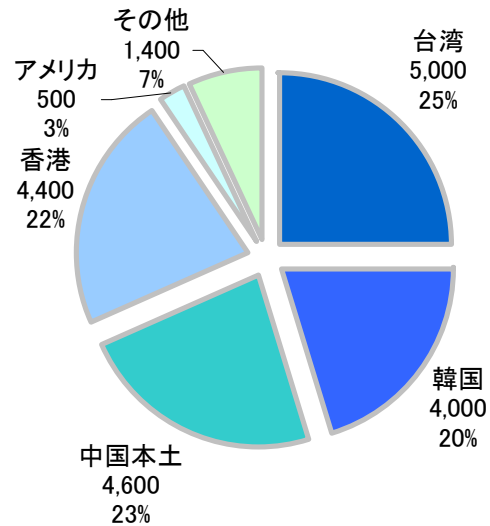
国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	5,000 人	3,200 人	1,800 人	+ 56.3%	25.1%
韓国	4,000 人	4,000 人	0 人	0.0%	20.1%
中国本土	4,600 人	800 人	+ 3,800 人	+ 475.0%	23.1%
香港	4,400 人	2,900 人	+ 1,500 人	+ 51.7%	22.1%
アメリカ	500 人	800 人	△ 300 人	△ 37.5%	2.5%
その他	1,400 人	2,500 人	△ 1,100 人	△ 44.0%	7.0%
合計	19,900 人	14,200 人	+ 5,700 人	+ 40.1%	100.0%

国内客 構成比



外国客 構成比



国籍別 空路・海路 入域状況(海外)

区分	空路 19,600人			海路 300人		
	観光客数	増減率	構成比	海路	増減率	構成比
台湾	5,000 人	+56.3%	25.5%	0 人	-	-
韓国	4,000 人	+0.0%	20.4%	0 人	-	-
中国本土	4,600 人	+475.0%	23.5%	0 人	-	-
香港	4,400 人	+51.7%	22.4%	0 人	-	-
アメリカ	500 人	+66.7%	2.6%	0 人	皆減	-
その他	1,100 人	+22.2%	5.6%	300 人	△81.3%	100.0%
合計	19,600 人	+62.0%	100.0%	300 人	△85.7%	100.0%

※特例上陸者数:300人を含む

## 各方面ごとの概況と見通し

## 東京

料金体系の変わる1/5頃からは集客が上向いてきたが、最終的には対前年比で減少した。航空機もアジアを中心とした海外旅行商品にシフトするなどしたため減少となった。2月以降、予約動向の動きが鈍いが、プロ野球キャンプの選手が宿泊するホテルへの問合せも多く、また温暖な沖縄への旅行需要が高まることから前年並みに推移するものと見込まれる。

## 大阪

1月は旅行各社の旅行商品の販売状況で特に目立った動きも無いものの、九州新幹線による旅行商品が好調な中、0.9%の微減に留まった。2月以降、対前年に比べて大幅な伸びは見込めないものの、対前年並みで推移するものと見込まれる。

## 福岡

前月から1月まで、予約の動きが鈍い状況が続いたが、出発日間近になってSKYによる伸びがあったため堅調に推移した。2月以降、節約志向に加え、円高を背景にした低価格の海外商品やTDR、USJ、南九州商品が売れ筋となっており、沖縄商品への反応は弱いですが、1月後半から予約が増加しているのので、今後の直近での予約増に期待したい。

## 名古屋

先月と比較すると1月の予約状況は少々減少したため、入域観光客数自体は微減となった。2月、3月の予約が好調なので、その分1月が少いものと推測される。2月以降、旅行会社が集中的に新聞広告を掲載した結果、2月、3月は非常に好調である。特に2月はプロ野球キャンプによる効果も大きいいため好調に推移するものと見込まれる。

## 台湾

1月は旧正月の9連休や、その期間中のチャーター便(7便)もあり好調に推移した。また、TV局による「テンペスト」や沖縄特集などの放送により沖縄PRによる集客も期待できる。2月以降、TV放送による沖縄PR、各種プロモーション、知事の観光トップセールス、更にはオープンスカイによる路線の拡大により今後も好調な推移が見込まれる。

## 韓国

1月は昨年12月のアジアナ航空デイリー化にも関わらず、ゴルフにおいてはウォン安円高、韓国が例年より温暖な気温となったため国内ゴルフに流入し、また、旧正月は家族旅行優先となったため沖縄への旅行者数は前年並みとなった。2月以降、ウォン安円高による懸念はあるものの、沖縄のプロ野球キャンプの季節により知名度向上も期待できるため引き続き堅調な推移が見込まれる。

## 中国本土

1月は中国国際航空(CA)による北京-那覇路線の就航等による提供座席数の増加、更には旺盛な旅行需要の高まりにより春節期(1/23~2/7)のツアーはほぼ完売状況となったことから対前年同月実績を大きく上回った。2月以降、CA主導によるキャンペーンの実施やブライダル雑誌による展示会、外務省主催「元気な日本」展示会へ出展等、沖縄県の露出が増えることから増加が見込める。

## 香港

1月は1/21史上初の香港石垣直行チャーター便運航(JTA)、春節(1/23)前後の予約好調の好材料もあり、沖縄旅行は好調に推移した。2月以降、長引く円高、旧正月後の旅行需要低迷期のため微減する見込みではあるが、沖縄旅行は市場で安定しており、今後も堅調な推移が見込まれる。



# 平成24年（2012年） 2月 入域観光客数概況

平成24年3月公表資料

2月の観光客数は、43万9,500人  
対前年同月比 +1万7,000人、+4.0%  
～5ヶ月連続で前年同月実績を上回った～

## 入域状況

2月の入域観光客数は43万9,500人となったことで前年同月実績42万2,500人を1万7,000人上回り、4.0%のプラスとなった。この内、国内客は対前年同月実績から1万5,800人(3.9%)増加し、42万3,400人、外国客は1,200人(8.1%)増加の1万6,100人となった。

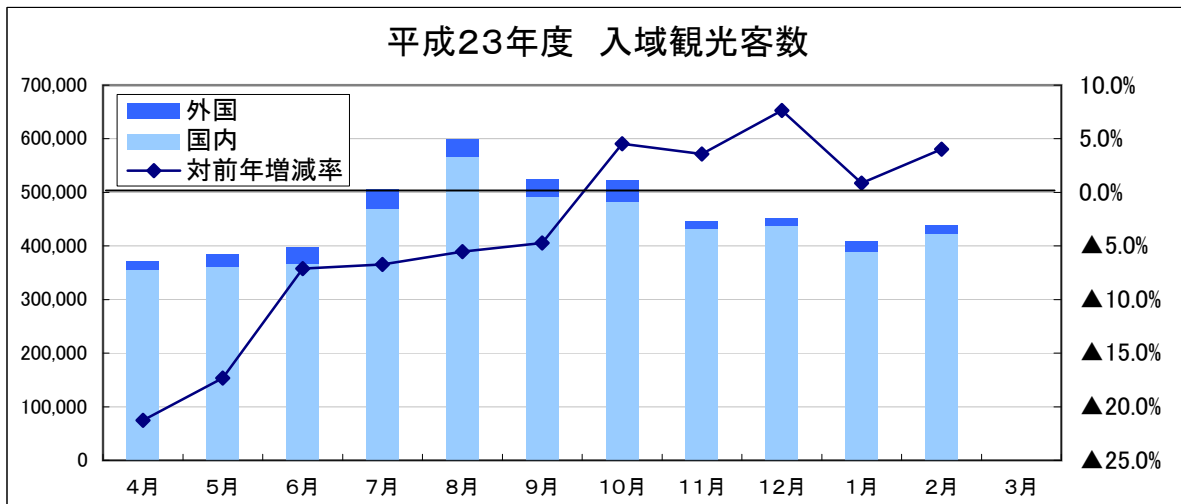
区分	入域観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
国内客	423,400 人	407,600 人	+ 15,800 人	+ 3.9%	96.3%
外国客	16,100 人	14,900 人	+ 1,200 人	+ 8.1%	3.7%
合計	439,500 人	422,500 人	+ 17,000 人	+ 4.0%	100%

## 国内客 入域状況

2月について、円高による海外旅行や九州新幹線の影響はあったものの、うるう年により一日多かったことやプロ野球キャンプの集客効果により前年実績を上回った。3月についても海外旅行や九州など国内観光地との競合が予想されるが、卒業旅行等の春休み旅行予約状況は安定しており、東日本大震災前の一昨年と同水準での推移が見込まれる。

## 外国客 入域状況

今年2月は昨年同時期に春節があった反動により、台湾、香港で前年実績を下回ったが、中国本土、韓国の高い旅行需要に支えられ好調に推移した。3月については台湾、中国本土、香港で航空機の増便や就航が予定されており、東日本大震災前の一昨年を上回る観光客数の増加が見込まれる。



地域別入域状況(国内)

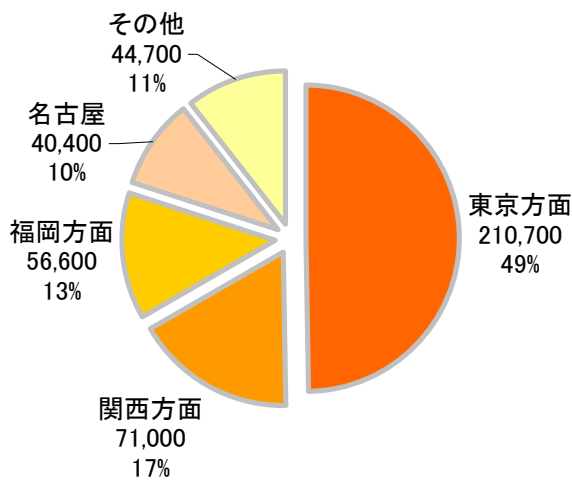
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	210,700 人	205,300 人	+ 5,400 人	+ 2.6%	49.8%
関西方面	71,000 人	70,300 人	+ 700 人	+ 1.0%	16.8%
福岡方面	56,600 人	54,200 人	+ 2,400 人	+ 4.4%	13.4%
名古屋	40,400 人	36,400 人	+ 4,000 人	+ 11.0%	9.5%
その他	44,700 人	41,400 人	+ 3,300 人	+ 8.0%	10.6%
合計	423,400 人	407,600 人	+ 15,800 人	+ 3.9%	100.0%

※国内海路客:1,600人 を含む(関西:100人、鹿児島:1,500人)

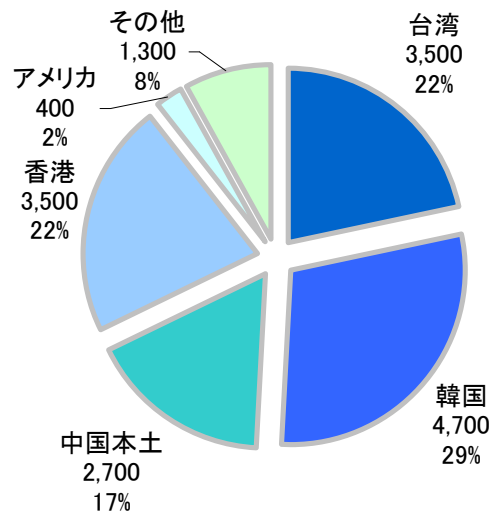
国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	3,500 人	4,000 人	△ 500 人	△ 12.5%	21.7%
韓国	4,700 人	3,000 人	+ 1,700 人	+ 56.7%	29.2%
中国本土	2,700 人	900 人	+ 1,800 人	+ 200.0%	16.8%
香港	3,500 人	4,400 人	△ 900 人	△ 20.5%	21.7%
アメリカ	400 人	600 人	△ 200 人	△ 33.3%	2.5%
その他	1,300 人	2,000 人	△ 700 人	△ 35.0%	8.1%
合計	16,100 人	14,900 人	+ 1,200 人	+ 8.1%	100.0%

国内客 構成比



外国客 構成比



国籍別 空路・海路 入域状況(海外)

区分	空路 15,800人			海路 300人		
	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	3,500 人	△12.5%	22.2%	0 人	-	-
韓国	4,700 人	+56.7%	29.7%	0 人	-	-
中国本土	2,700 人	+200.0%	17.1%	0 人	-	-
香港	3,500 人	△20.5%	22.2%	0 人	-	-
アメリカ	400 人	+33.3%	2.5%	0 人	皆減	-
その他	1,000 人	+11.1%	6.3%	300 人	△72.7%	100.0%
合計	15,800 人	+17.0%	100.0%	300 人	△78.6%	100.0%

※特例上陸者数:300人を含む

## 各方面ごとの概況と見通し

## 東京

2月について、修学旅行は沖縄と価格帯に近い海外旅行と比較すると予約状況が鈍い傾向にあるが、個人旅行については1月後半から2月前半にかけて間際予約を中心に好調に推移した。  
旅行会社によると、3月については一昨年と比較してほぼ前年並みに推移する見込みだが、4月、5月は個人型旅行商品、インセンティブツアーが活発になり堅調な推移が見込まれる。

## 大阪

2月について、大手旅行各社の沖縄商品の売れ行きは良く、対前年並みからプラス傾向で推移し、昨年同月実績を上回った。  
3月以降、国内では以前として九州新幹線利用の九州方面への旅行商品の売れ行きが好調である。また、円高の影響で海外へシフトしている傾向が続いており、卒業旅行にあつては料金面でお得感のある海外(アジア)及び九州方面が好調であり、沖縄の伸びが懸念される。

## 福岡

前月から2月まで、予約の動きが鈍い状況が続いたが、出発日間近になってSKYによる伸びがあったため堅調に推移した。  
3月以降、前年が東日本大震災の影響で落ち込んだ反動と2月後半から予約が増加し堅調な推移が見込まれるが、円高の影響による海外旅行需要の高まり等の懸念がある。

## 名古屋

2月において、当初、沖縄の長雨の報道があり出足は鈍かったが、プロ野球キャンプ報道等の宣伝効果により好調に推移した。  
3月以降、沖縄県、OCVBによる新聞記事広告が沖縄旅行への需要に好影響を与えており、春休みや卒業旅行のシーズンも好調に推移するものと見込まれる。

## 台湾

2月は今年の春節があった反動により観光客数は対前年同月実績を下回ったが、沖縄への旅行市場は比較的安定を維持している。  
3月の遠東航空、4月の華信航空、5月の復興航空などの新規就航が予定されており、今後、多くの台湾人観光客が見込まれる。

## 韓国

2月は釜山でプログラムチャーター便の販売やアジアナ航空のデイリー化により提供座席数が増え、ゴルフ客や野球キャンプのイベント効果により対前年実績を上回ったことで月単位としては過去最高の客数(4,700人)となった。  
3月は新学期の始まりと中旬から機材不足による減便により大きな増加は見込めないが、3月の祝日や小中学校では週休二日制が実施されるため旅行需要の高まりが期待できる。

## 中国本土

春節(1/23-29)後であること及び例年2月は集客が難しいことから、1月よりは落ち込むが、旅行需要が引き続き好調なため、前年同月実績は上回った。  
3月25日より東方航空が増便し、週5便から7便(デイリー運航)になる。旺盛な旅行需要と相成って引き続き好調な推移が見込まれる。

## 香港

2月について、前年は2月が春節だったために前年実績を下回ったが、インセンティブツアーなどの団体旅行も組まれており、沖縄旅行人気は市場で安定している。  
3月以降、ホエールウォッチングなどの商品販売予定や香港ドラゴン航空が週2便から4便に増便するなど、沖縄旅行への需要は引き続き好調な推移が見込まれる。

# 平成24年（2012年） 3月 入域観光客数概況

平成24年4月公表資料

3月の観光客数は、53万3,100人  
対前年同月比 +10万1,400人、+23.5%  
～東日本大震災による減少の反動により大幅な増加となった～

## 入域状況

3月の入域観光客数は53万3,100人となったことで前年同月実績43万1,700人を10万1,400人上回り、23.5%のプラスとなった。この内、国内客は対前年同月実績から8万6,900人(20.5%)増加の51万200人、外国客は1万4,500人(172.6%)増加の2万2,900人となった。

区分	入域観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
国内客	510,200 人	423,300 人	+ 86,900 人	+ 20.5%	95.7%
外国客	22,900 人	8,400 人	+ 14,500 人	+ 172.6%	4.3%
合計	533,100 人	431,700 人	+ 101,400 人	+ 23.5%	100%

※平成23年3月入域観光客数を 436,400人 としていましたが、正しくは 431,700人の誤り

## 国内客 入域状況

3月について、学生旅行の伸び悩みや海外旅行との競合などマイナス要因はあったが、東日本大震災の旅行自粛の反動から大幅な増加となった。

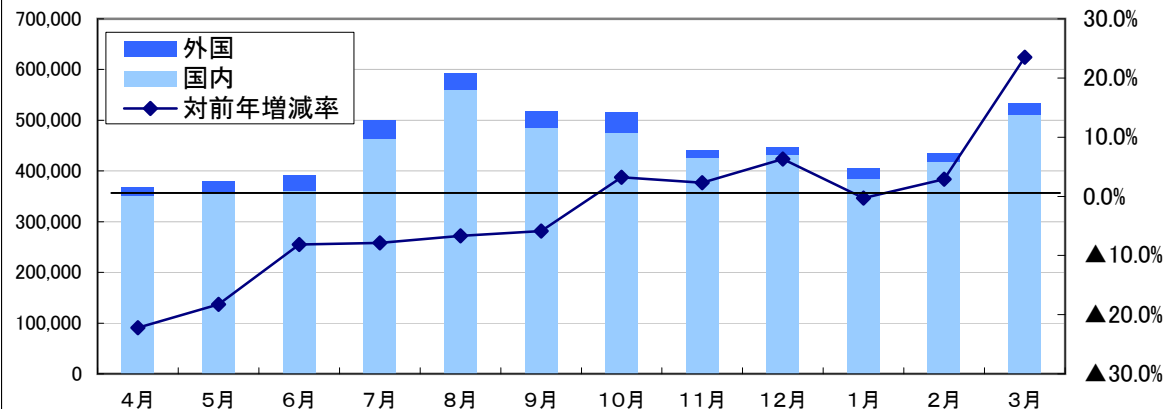
4月についても堅調な推移が見込まれており、震災の影響による反動で増加となり、平成22年並の水準に近くなると考えられる。

## 外国客 入域状況

3月については中国本土、香港で航空機の増便もあり、観光客数は東日本大震災前の一昨年を上回る大幅な増加となった。

4月について、台中-那覇路線の新規路線の就航など、海外からの旅行需要は安定的に推移しており、今後も引き続き好調な推移が見込まれる。

平成23年度 入域観光客数



地域別入域状況(国内)

区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	251,700 人	193,500 人	+ 58,200 人	+ 30.1%	49.3%
関西方面	93,800 人	85,500 人	+ 8,300 人	+ 9.7%	18.4%
福岡方面	64,400 人	58,500 人	+ 5,900 人	+ 10.1%	12.6%
名古屋	44,500 人	41,100 人	+ 3,400 人	+ 8.3%	8.7%
その他	55,800 人	44,700 人	+ 11,100 人	+ 24.8%	10.9%
合計	510,200 人	423,300 人	+ 86,900 人	+ 20.5%	100.0%

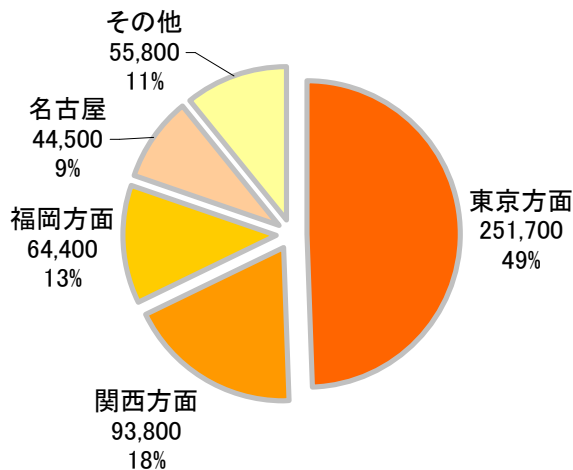
※国内海路客:3,700人を含む (東京:100人、関西:100人、鹿児島:2,500人、その他:1,000人)

※平成23年3月「名古屋」入域観光客数を 45,800人 としていましたが、正しくは 41,100人の誤り

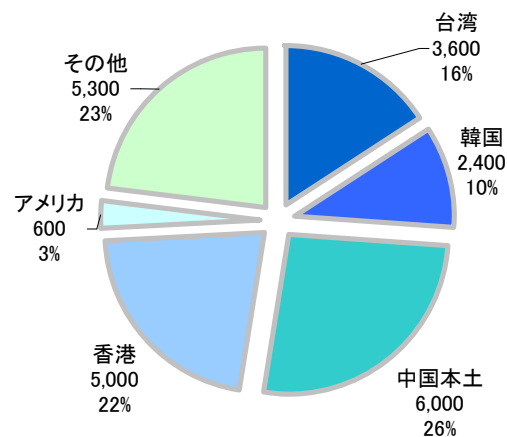
国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	3,600 人	2,300 人	+ 1,300 人	+ 56.5%	15.7%
韓国	2,400 人	800 人	+ 1,600 人	+ 200.0%	10.5%
中国本土	6,000 人	100 人	+ 5,900 人	+ 5900.0%	26.2%
香港	5,000 人	2,100 人	+ 2,900 人	+ 138.1%	21.8%
アメリカ	600 人	600 人	0 人	0.0%	2.6%
その他	5,300 人	2,500 人	+ 2,800 人	+ 112.0%	23.1%
合計	22,900 人	8,400 人	+ 14,500 人	+ 172.6%	100.0%

国内客 構成比



外国客 構成比



国籍別 空路・海路 入域状況(海外)

区分	空路 15,600人			海路 7,300人		
	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	3,600 人	+56.5%	23.1%	0 人	-	-
韓国	2,400 人	+200.0%	15.4%	0 人	-	-
中国本土	3,400 人	+3300.0%	21.8%	2,600 人	皆増	-
香港	4,300 人	+104.8%	27.6%	700 人	皆増	-
アメリカ	500 人	+150.0%	3.2%	100 人	△75.0%	-
その他	1,400 人	+40.0%	9.0%	3,900 人	+160.0%	53.4%
合計	15,600 人	+140.0%	100.0%	7,300 人	+284.2%	100.0%

※特例上陸者数:2,600人を含む

## 各方面ごとの概況と見通し

## 東京

3月について、学生旅行の伸び悩み、海外の格安旅行との競合などマイナス要因はあったが、寒波による温暖な沖縄への旅行需要の高まり、月末の大型イベント等の効果により、春休み期間の家族旅行を中心に好調に推移した。  
GW期間中、航空機の予約状況は一部で空きが見られるが、昨年自粛した反動により一部(インセンティブツアー等)で好調な予約状況が見られることから堅調な推移が見込まれる。

## 大阪

3月について、震災の翌年ということで、対前年同月実績ではプラス傾向にあるが、学生の卒業旅行の伸びが芳しくなく、大幅な増加とはならなかった。  
旅行決定の間際化は今後も続き、動向が読みにくくなってはいる。4月、6月は好調な伸びが見込めるが、5月にあってはGWの日並びの関係で伸びが低調である。また、円高が続き海外商品の売れ行きは好調であり、沖縄方面との競合が予想される。

## 福岡

3月について、昨年の震災の反動から前年同月実績を上回った。3月中の動向として、旅行各社共に出足は低調であったが、旅行決定の間際化で月後半から好調に推移した。  
依然として旅行決定の間際化が続いており、旅行各社共に4月の伸びが低調である。GWにあっては、前半の予約状況が低調であるが、連休後半は好調に推移するものと見込まれる。

## 名古屋

3月について、沖縄県、OCVB、地元旅行社による新聞記事広告やテレビで沖縄関連の番組が多く放送されたことにより旅行需要が高まったと見られ、堅調に推移した。  
4月以降、引き続き、沖縄の芸能やイベントに参加するツアーが好調で4月、5月は3月の好調な流れを維持し、堅調に推移するものと見込まれる。

## 台湾

円高による沖縄への旅行需要低下が懸念されたものの、3月に開催されたMUSIXや沖縄国際映画祭には台湾からも多くの観光客が参加し、好調に推移した。  
4/14から華信航空が台中-那覇路線(週2便)で新規就航し、観光客数の増加も見込まれるが、円高やGW期間中のホテル料金の値上がりにより、航空機を利用した旅行需要の低下が予想される。

## 韓国

3月は新学期で旅行需要は落ち着く時期だが、震災前の一昨年と比べてもアジアナ航空が2便増加しているため、3月としては過去最高の観光客数を記録した。  
4月はアジアナ航空の減便(7便→5便)等により懸念事項はあるが、今年から実施された学校の週休二日制による家族連れ観光客の増加、さらに格安の近距離海外旅行が注目されると見込まれており、沖縄への送客拡大も期待される。

## 中国本土

3月25日より東方航空が増便し、週5便から7便(ディリー運航)となり、さらに引き続き旺盛な旅行需要に支えられ好調に推移した。  
4月以降も旅行需要が高い状態が安定して続くと思われ、さらに震災前の一昨年と比べても定期便が週2便→11便ともなっているため今後も好調に推移すると見込まれる。

## 香港

3/25よりドラゴン航空が機材を小型化するが、沖縄便が週2便→4便に増便し、実質的な提供座席数は11.3%の増加となった。また、沖縄旅行への需要は安定しており、引き続き好調に推移した。  
震災前の同時期と比べても航空機が週あたり4便増加しており、さらに4月もイースター連休による旅行需要が高まる時期でもあるため好調な推移が見込まれる。